

タオル製造において業務負荷の高いドット修正業務をAIアルゴリズムを用いて効率化

採択事業者名

Polaris.AI

コンソーシアム構成員

株式会社藤高

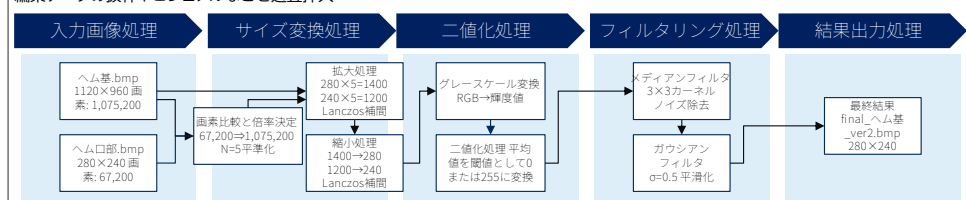
勉強会の実施概要

コンソ内部のみ		含む外部	
実施回数の累計	00	実施回数の累計	00
参加人数のユニーク累計	000	参加人数のユニーク累計	000

代表的な実施事例

狙いとゴール	- ドット修正アルゴリズムの認知を拡大させる - 本事業で開発したドット修正アルゴリズムを実際に使ってもらい、意見を収集して改善に生かす
実施の成果	- (想定)勉強会を通じて〇〇件の引合が発生 - (想定)収集した〇〇件の意見/フィードバックを開発チームに連携
実施アジェンダ 協議内容	- プログラムの技術説明 - ツール体験 - ユーザー意見/フィードバックの収集
参加者の一例	- 藤高以外のタオル事業者
次年度以降の 想定アクション	- 次年度開発する、修正対象を拡大した新ツールの利用会・意見収集

編集データの抜粋やビジュアルなどを適宜挿入



データ活用・協議の具体例

重要指標例	データ活用・協議の具体例	
	・ 1枚画像修正に必要な業務工数(の削減率) - ドット修正プログラムを用いることで機械的だが業務負荷の高い「文字」部分の修正時間を削減	
	実装前	実装後
	- エンドクライアントからのデータ入稿 ※圧縮前の高画質なデータ	(実装前と同様)
	- 従来アルゴリズムによる圧縮	- アルゴリズムによる修正(数パターンの修正を実施) - 数パターンの絵柄の中から収縮による崩れが小さいデータを選択
データ取得 ↓ データ活用 ↓ 実行 ↓ 業務反映	- 担当者それぞれの美的感覚に頼ってドット修正を実施 ※人によって修正方針に差がある	- 選択した絵柄データの残りの部分(所要時間50%見込)の修正 ※実装後であってもキャラクターや生き物など、人間の美的感覚が必要な修正業務は各担当者が実施する必要がある
	- 非常に大きな業務工数がかかる - 属人化した修正方法により修正の質にばらつきが生じる	- 工数の削減(50%見込) - プログラムによる修正により一部属人性が改善され修正の水準が向上

代表的な実施事例

ドット修正に必要な業務工数の削減に向けて、まずは文字修正を行ったデータをツールに何パターンか作成させ、複数パターンの中からよりよいものを担当者が選んで、残りの修正を担当者が実施

項目	これまで	データ利活用・協議を踏まえて
ドット修正	全て担当者が修正	50%をツールが修正し、残りの50%を担当者が修正(見込)